

登壇者のプロフィールとメッセージ

平田 オリザ (ひらた おりざ)

劇作家、演出家。青年団主宰、こまばアゴラ劇場支配人、内閣官房参与、大阪大学コミュニケーションデザイン・センター教授。「リアルな演劇」「静かな演劇」の旗手として、1990年代以降の演劇界で活躍している。代表作に「東京ノート」、「月の岬」、「その河をこえて」、五月、著書に「芸術立国論」などがある。



©T.Aoki

日本が抱えている閉塞感を打開するためには、「内なる国際化」によって意識を改革し、対話教育と演劇的手法で、日本人のコミュニケーション力を高める必要があります。これは、海外における日本語教育、国内における日本語教育、そしてさらには国語教育も含めた大きな変革となるでしょう。私も、作家として、教員として、内閣のお手伝いをしている立場で、この動きを応援したいと思います。

大津 由紀雄 (おおつ ゆきお)

慶應義塾大学言語文化研究所教授、日本学会言語学連携会員。Ph.D. (MIT、言語学)。専門分野は言語の認知科学 (母語獲得、統語解析、言語教育など)。言語教育関係の著書に「ことばの力を育む」(共著)、「探検!ことばの世界」、「ことばのからくり」などがある。



多言語化・多文化化が進む日本社会にあつて、日本語教育には期待しています。「日本語を母語としない人々を対象にした、日本語の教育」に留めることなく、日本語を母語とする人々に「ことば」という視点を提供してほしいですね。国語教育と英語教育に対する提言があれば、三者が一体となった言語教育の実現も夢ではありません。

陳 天璽 (ちん てんじ)

国立民族学博物館・准教授。国際政治経済学博士。専門は移民・マイノリティー研究、特に華僑華人、無国籍者に光を当てる。2002年アジア太平洋研究奨励賞受賞。著書に「華人ディアスポラ」、「無国籍」、編著に「忘れられた人々 日本の「無国籍」者」などがある。



日本では、外国人の増加に伴い国際結婚が増え、多民族化が進展し、外国にルーツを持ちながら日本に生まれ育つ子どもたちが増えています。中には「日本国民」である人も多くいます。日本社会において、彼らはどんな境遇にあり、何を思い、また、どんな役割と可能性を持っているのか。それを日本語教育と絡めてお話します。

井上 洋 (いのうえ ひろし)

日本経済団体連合会社会広報本部長。1980年、早稲田大学商学部卒、経団連事務局入局。総務本部・秘書グループ長 (奥田碩元会長秘書)、産業第一本部長を経て、2009年より現職。これまで、外国人受け入れ問題に係る諸課題、移民政策などの提言とりまとめを担当。



日本は、50年で人口が30%近く減少し、少子高齢化によって、成長が止まる恐れがあります。成長を維持するには、新技術・新製品を開発し、急拡大するアジアの需要を惹きつける戦略をリードする人材を育成し確保しなくてはなりません。外国人にも「学びたい、働きたい、生活してみたい」と思わせる魅力的な国づくりが急がれます。

中川 正春 (なかがわ まさはる)

衆議院予算委員会 民主党筆頭理事。米国ジョージタウン大学国際関係学卒。三重県議会議員3期。衆議院議員5期。鳩山内閣、菅内閣で文部科学副大臣。科学技術への投資拡大、大学の国際化、外国人労働者の子女教育、日本語教育に取り組む。



地元三重県鈴鹿市は人口の5%が外国人。副大臣在任中は、日本語教育関係者からの要望も受け、日本語教育の体制整備や基本方針の策定にも力を入れました。ただ、やっとスタートラインに立ったところです。

馳 浩 (はせ ひろし)

衆議院文部科学委員会 自民党理事。元高校国語教諭。元プロレスラー。参議院議員1期。衆議院議員4期。文部科学政務官、副大臣、自民党文教部会長を歴任。2007年与野党対決色の強い中、児童虐待防止法改正を超党派でまとめ上げる。



この国の未来にとって日本語教育はきわめて重要。包括的な政策のためには、裏付けとなる根拠法やマスタープランがぜひとも必要です。みなさんの応援があれば、それを超党派で練り上げることもできると思います。

日本語教育学会 公開シンポジウム

活気ある社会づくりと日本語教育

日時: 2011年 6月26日 (日)

13:00~17:00 受付開始: 12:00

会場: 一橋大学 西キャンパス 兼松講堂

メール予約 webapply@nkg.or.jp

一橋大学へのアクセス

東京都国立市中2-1 Tel: 042-580-8000

●JR 中央線国立駅 南口から徒歩約6分

●JR 南武線谷保駅 北口から徒歩約20分、バス約6分



多彩な登壇者が集う貴重な機会です。お誘いあわせの上、ふるってご参加ください。みなさまのお越しを主催者一同首を長くしてお待ちしております。



今村 和宏



嶋田 和子



野山 宏